

村松先生
宮城教育大学

環境教育

皆さんこんにちは宮城教育大の村松です。私から皆さんに対する派遣前のメッセージとしてですね、私たちは大変重要なお話を皆さんにメッセージするんじゃないかと思いますが、お疲れになっていると思いますが聞いていただきたいと思います。皆さんへの直接的な関わりのあるいわゆる情報支援ということで話しを進めさせていただきます。お手元に資料を配布してありますが、環境教育分野に関するこれまでの事業の紹介を簡単にさせていただきます。皆さんは必ずしも環境教育隊員ではないのですが、私たちはこういう取組をしますというのをまず簡単に紹介させてください。それから 2 つ目は環境教育というものの支援の対象というものは私たちこういうふうを考えていますよという話しをさせていただきます。そうすると皆さんにも直接関わりあるねってということになると思います。それから私たちがたくさん情報を集めているんですが、そういった情報をどういうふうに皆さんが使うのか使えばいいのかそういったお話を出すね、これから皆さん派遣国でいろいろな活動をなさいますが、そういうときにどういう観点で環境教育情報を使ったらいいのかということをお話させていただきます。

まずいままで私たちは何をやっているのかということ、この写真は今年の 3 月の始め 10 日間ぐらいでしたけれどもコスタリカとエルサルバドルに行ってきたときの写真です。環境教育分野のサポートというのは 12 名でやっておりますが、そのうち 2 名にいただきました。一番左が私たちの事業の顧問をしてらっしゃる JICA の〇〇〇〇先生です。JICA の顧問が同行してくれて初めて私どもの調査がうまくいった、我々海外調査に関してはそれほど専門的でないもんですから JICA の協力を得て行ったという時の写真です。私たちはいったい環境教育分野でどんな支援をするのかということここで簡単にまとめてあります。1 つは派遣前、もう 1 つは派遣中、そして隊員の帰国者に対する 3 種類のサポートというのを考えている。特に派遣前ではいったいこれから皆さんが現地に行ったときに困らないように前もって何をしておけばいいのかというようなことを支援するためにいろいろな情報を皆さんにお渡ししておきたいということで自学研修支援ということで手元の資料に書いてありますから読みませんがいくつかの情報というのをまとめてコンパクトにして皆さんにご提供するということが一つ。それから派遣中に対しては、実際に現地ですとおりにはいかないですとか、あるいはこういうことがしたいんだけどこういう場合どうしたらいいんだろうとか、そういったことに対していろんなアドバイス、問題点をこちらにもってきてもらえばそれについてのアドバイス等をしていくというそういう支援、それからもう 1 つは皆さんが 2 年後戻ってきた時に皆さんの海外の経験というのを日本の学校教育や教員養成の中でどういうふうに活用していけばいいのかその受け皿というのをどういうふうに置いておけば皆さんの海外のすごい教育力を日本の教育に還元できるのか、い

いわゆる国際理解教育という 1 つの大きな枠の中で私たちができるまとめ・体制的なこと、そういったことをですね作っておく、作っておきたい、そういうことでこの 3 つの部門の支援をしていくということです。時間ないのでいちいち読み上げませんが。

それで今日は派遣隊員の事前準備ということでまずどんなことをするのか、で実は環境分野に関するお話なんです、実は後でちょっとお話ししますが環境分野というのは皆さんが現地で活動する時に必要ないろんな分野の 1 課題になっていくものです。これは皆さんが学校の先生で例えば小学校の総合的な学習の時間でやるとか、いわゆる総合学習的なものの中で環境というのはほとんど取り上げるのではないですか。そういうことで環境というのはいろんな教科の中で常に密着したものでちょっとこれを考えて欲しいんですが、事前準備としてどんなことを勉強しておかなくてはならないですか、これはあくまで大学からの皆さんへのメッセージであって学際的な支援の立場としてまとめたものということですね。まず 1 つはここに書いてあるように現地の状況を把握しておかなくてははいけませんね、こんなのは当たり前の話ですね、私から言われるまでもない。それから派遣先の業務というのはどういうものか、これも当然ですね。そういった派遣地の状況や求められる業務に対してどんな教育の方法や技術があるのかということをやっておくべきなんです。それからもう 1 つ重要なことは過去の隊員は同じような課題に対してどんな取組をしていたか、そしてどんな成果があったのかということも勉強しておかなくてはならないですね。つまり青で描いているようなものですね、まとめますと。派遣先の要請・派遣先の業務水準、それから派遣先の業務環境、教育環境はどうなっているか、その中で予想業務に対する教育課題、どんな目的を設定すればいいんだろうとか、その方法はどうか、それをやった時にどんな教育効果があるのか、そういったことを少し頭の中でシュミレーションしておく方がいいんじゃないですか、ということですね。それからもう 1 つは前任者からの引継ぎ事項というのはどんなものがあるか、どういうところに気をつけろと彼らは言っているのか、これをやるともって教育効果が上がるよといった情報、そういったことを前もって勉強しておく皆さんはいろんなところに行ったときに比較的容易に現地での教育計画といったものを立てられるんじゃないですかということですね、それからいろんな隊員が体験なされた成功のノウハウですとか、あるいは失敗談というのをよくよく調べておくといいですね。そしてそうしたことに對して隊員はどんな対策をとったかその成果はどうだったか駄目だったか駄目ならばどう行った方法があり得るのかそれを皆さんは考えて行けばいいということ。それからもう一つはそういったこといろんなことをやっておかなくてはならないですね。行って初めて目的が分かったとか、ああこういうことを向こうの人たちは要望しているのか、それに対して皆さんは答えて行かなくてはならない、努力するんですね、そんなときにいろんな情報がまた必要になるんです。教材であるとか、じゃあどこに行けばその教材が得られるのか、そういうことを私たちは一つの情報パックとして皆さんにお渡ししておきますという取り組みなんです。そのために派遣現職教員データベースというのを今年 1 年で必死になって作りました。それはこんなものです。

皆さんの資料の2枚目か3枚目にあります。これ派遣現職教員活動データベースっていうんです。いわゆる帰国隊員、皆さんがこれからなさるんですけど、1号報告書から5号報告書までするんですよ。そういったものを今までの隊員、主に環境教育分野の隊員なんです。そういう人から情報をもらいまして JICA の報告を得て報告書をお借りしてそれを全部読んで1字1句読んで内容について分析かけたんです。その分析結果を系統的にまとめてこうしたデータベースにしたものがあります。いいですか、これを私たちは JICA に全部データベースをお渡ししていますね、それから JICA から皆さんにたぶん配布していくんじゃないかということですので、これはインターネット等で見れるんですが、皆さん実際にアフリカとかいろんなところに行きますとね、インターネットなんか使えませんよね。そういう場合どうすんのこういうの、だからこっちでは CD 版とか DVD 版でパソコン単体で入るように、皆さんが派遣現地のどこかの村のどこかのアパートで一生懸命勉強するとき、そのアパートの皆さんのパソコンの中に見えるような形まで持って行ってそれをお渡ししているいろんな勉強をしてもらおうかとかこういう話ですね。10:58 でいろんなものがありますが時間がないので例えば地域別検索でインドネシアではどんな活動をしてんのかというふうに現れてきます。4名の隊員のデータがここに載ってます。インドネシアのどこに配属されて業務内容はどんなことかそういったことを我々はまとめているんです。例えば活動計画はどうなっているのか達成度はどうだったか報告書はどういう風に書かれているのか、それから障害・問題点はどんなものか支援の効果はどうだったか今後の課題はどういうものがあるのかそういうことをまとめています。それからこの人たちがポイントとなることをたくさん言っていますから今後の協力の見通しをこの人はどういう風に思っているのかそれをどう後続隊員に引き継ごうとしているのか、そういうのをこちらが全部読んでとても重要だなという部分を我々は赤で囲ってですね、そういったことを皆さんにご提示できるようにしている。しかも膨大な文章からすぐに読み取れるようにコンパクトにまとめている。ですからこれを印刷しても A41 枚程度になる。そんなものにまとめている。こういうものをいっぱい載っています。それから派遣隊員はどんな計画を立てているのか、それに対してどんな報告をなさっているのか。つまり計画があるわけだ、その計画に対して活動報告はどういうものかとか、これを課題に対する継時的変化としてうまくいったかうまくいかなかったかということを表としてまとめられている、そういったものをここに載せている。そういった活動の実態に対して私たちは彼らに対して何ができるのかということであるような教材等をここに設けている。例えばゴミ問題は多いんでゴミに対しては環境教育的な立場からこういうやり方がいいですよというアドバイスをしています。そういうのをこういうふうにまとめて提供している。いわゆるこちらから支援教材みたいなものをいろいろ載っている。そしてこの人に対して、ああこういう活動をやっているのねっていうふうに我々は全部評価していますから評価した内容がここに書いてあるというものです。こういう情報がいろんな隊員の報告書を使って書かれてあるもの、欲しいでしょこういうの。これは皆さんに JICA を通して手許に入りますから、そういうのをうんと活用し

てもらいたいということです、いいですか。あと見てもらえばいいんですけど、いろんな課題ありますよね、生活関係の課題でありますとか、それから理科の課題とか、そういったものに対して例えば、エコツーリズムってやってんのかなと、そうするとこんなにやってた。でこれを見るとさっきのフォーマットで全部見えてきますから、そしてエコツーリズムでこの人は要望とか提案してるんで、どんな内容で提案しているのか、それを派遣前の隊員はしっかり読み取ってああこうやればいいのね、そういうふうにしていくんですよ。14:33 情報の使い方というのはそういうものなんですね。これからもっと教えるんだよ。えっと思うくらいのびっくりするようなことを教えますからね。いいですか、情報を作っていく立場ではこれは実に大変なんです。雑な言い方をすると死ぬ思いをするわけだけど使う方はものすごくメリットあるということですよ。こういう形のをまず用意しましたので、利用してくださいということです。それでいろんな課題をもっています。この人の活動課題はこうですよ、障害はこうですよ、こんなにまとめていますから見たいでしょ。こういうのがいっぱいあるんです。こういうのおもしろいでしょ。それから環境教育実践事例データベースっていうのがあるんです。これは皆さんにあとでこれを使って少し教材を作ってみましょうというのがありますからこれは省略しますよ。それでようするに海外での環境教育活動って一体何なのかという日本の環境教育活動は皆さんの小学校・中学校等でやってるから耳にしたり目にしてるから今お話ししないけど海外での環境教育活動っていうのはこういうことです。隊員が仮に行くとすると指導者養成支援というのがあります。向こうにはこの学校の中で子どもたちは一生懸命勉強するけどカウンターパートというのがいます。そういうカウンターパートと一緒にいるんなことを教えていく。そんな時に隊員の役割は 1 つはそういったカウンターパートをいかに育てていくか、あるいは現地の先生をいかに育てていくかという指導するというのが 1 つ、もう 1 つはそういうカウンターパートや同僚と一緒にあって子どもたちに直接教えていくというのがもう 1 つ、これが 2 つ、大きく分けるとね。どっちが多いかというと 2 つ目の直接教育というのがほとんどです。じゃあどんな勉強を子どもたちにさせるのこれは地域地域によって全く違うんだけど、それはここに書いてあるように大体はいわゆる環境問題というのがあって深刻なんです。そういった問題に対して知識を教える、世の中ってこういうもんなんですよ、酸性雨ってこうなんですよ、ゴミ問題ってこういうことですよって知識だけ教えるような教育が今なされているから問題だとこういうふうな話しなんだけど、そういう取組ともう 1 つはもう学校論・環境教育というよりはそういった教科的な枠組みではなくてもう暮らし教育・生き方教育、そういうものに全部関わってくるということはどういうことかということと皆さんの教科の中で扱えるものがほとんどなんだということです。もうこれ以上説明しません。自然と暮らしの中で自分たちは生きてるわけでそういう中でいろんな物資がどんどん入りこんでいってそしていろんな環境破壊っていうのも起こってくるわけです。例えばプラスチックというのはほんと便利なんですね。コスタリカなんてのはこれからどんどんプラスチックなんか入っていきますから例えば包装紙に使ったら、そしたら便利だね

ってこうなるわけでしょ。でももうこれいらなくなった、どこに捨てるの、道端に捨てる。そうするとこうなってくる。つまり処理方法が分からないとかいろんな課題がある。だから今コスタリカでは一生懸命ゴミの回収とかをやっています。その中にいわゆる派遣現職教員や技術隊員と呼ばれる人たちが関わっています。こういうふうな取組を今しています。求められる教育というのはこういうふうにニーズとその地域の発展性に寄与するものと技術隊員の能力と受け皿となる子どもたちの頭・学習力・意欲そういったものの中であなた方はみんな教育の計画を立てていかななくてはいけないですよってお話しです。でいろんなニーズがありました。これは直接行って話を聞いてきたんです。で皆さんの資料に書いてある通りですが、見てください。主に情報支援欲しい、情報の共有化が欲しい、こういったことをやる時にどこにいけば資料があるのか、そういった社会情報も教えてくれ、あの隊員は他の国でどんな活動をしているかその情報も欲しいそういったものをまとめて渡します。こういうふうな支援を私たちは計画して今までやってきているわけです、いいですか。それで最後ですけど、こういうふうな図を見た時に今日 6 つの課題、環境教育はこうですか、いろんな柱があります、柱の 1 つに環境教育をあげています。こうですか、それともこうでしょうか、環境教育は。つまりいろんな柱の上に立つものが環境教育ですか。いえいえ違いますよ、下にあるものですよ、こういう図、いいですか、皆さんはこの 3 つの中から環境教育ってのはどれだと思いませんか。何番目だと思う？全部？、近い。大体は皆 C って答えるのね、大体タイプ C だよ。答えはね、こうです。タイプ B と C を選ぶべきです。いいですか。これは一側面的な話しなんですがタイプ A というのは海外が日本の皆さんに要請しているような内容こういうこと、これ側面的ですよ、いいですか。だけど環境教育の本質ってのはこういうところにあるんです。こういったものを背景にして、ここで現地の人たちの要望に応じていかななくては行けませんよ。ということです。いろんな教科があります。教科がある上の部分に環境教育があればその上の部分の環境教育はいろんな教科に支えられているということが分かるでしょ。それから下じゃなくて上にあるというのは環境教育の持っているいろんな教育方法や能力をそれぞれの皆さんの分野に活用できるよってことを言っています。いいですか、ですからこれとこれなんです。皆さんのいわゆる教育文化部門のこれからの活動の基盤となるものなんだということはお話しておきたいと思います。以上です。

青年海外協力隊派遣現職教員

環境教育分野のサポート

宮城教育大学
環境教育実践研究センター

MUSEO NACIONAL
DE
BOGOTÁ - COLOMBIA



環境教育分野のサポート

派遣前



派遣中



帰国

事前準備

実践上の諸課題

海外教育経験

何をどのように？

この場合何をどうする？

経験をどう生かす？

自学研修支援

- 教材
- 海外情報
- 過去の隊員活動事例
- 学習相談・実践研修

活動支援・問題解決支援

- 教材
- 情報交換
- 隊員活動事例
- 実践相談
- その他学際的事項

教育支援

- 学校間交流
- 国際理解教育
- 教材共同作成
- その他学際的事項

派遣前隊員の事前準備

事前準備

自学研修

- 派遣現地状況の把握
- 派遣先の業務
- 教育内容(課題と方法)
- 過去の隊員活動

- 派遣先の要請
- 派遣先の業務水準
- 配属先の業務環境・教育環境

- 予想業務(教育活動)のシミュレーション
教育課題 目的と方法、結果への対応
- 前任者(隊員)からの引き継ぎ事項の把握
前任隊員活動のノウハウ、障害対策
- 教材の質、入手方法の確立

○ 派遣現職教員活動データベース



整理してまとめておくこと

- 環境教育の基礎と実践

環境教育と実践のノウハウ 整理・復習

○ 環境教育実践事例データベース

海外での環境教育支援活動

学校教育活動、住民教育(啓発)活動

- 指導者養成支援
- 生徒・住民に対する直接教育
- 実践を伴う環境問題に関する知識学習
- 生活教育・保全を意識した暮らし教育
ゴミ問題、リサイクル、緑化・美化、栽培など
- 環境教育という科目は無い





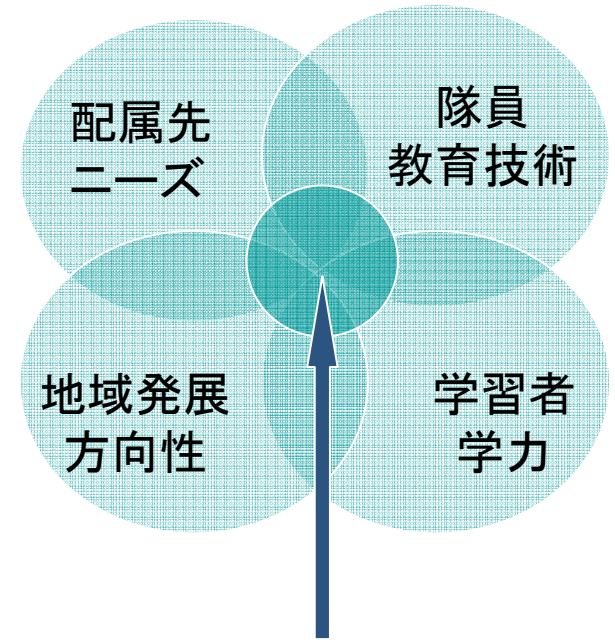
自然と暮らし



暮らしと環境



努力と協力



求められる教育の計画

教育計画・準備支援

(配属先の多様なニーズへの対応)

- ・教育情報(事例情報・所在情報)提供の整備 と共有化促進

(地域の持続可能な発展を可能にする教育)

- ・配属地の自然・地域・文化・暮らしについての正確な知識の提供

(学習者の能力認識のために)

- ・赴任国の教育計画、環境教育の取り扱い、教育事情 についての和訳資料の提供
- ・赴任国の教科書など一般的な教育教材の閲覧システム

(隊員の教育技術向上のために)

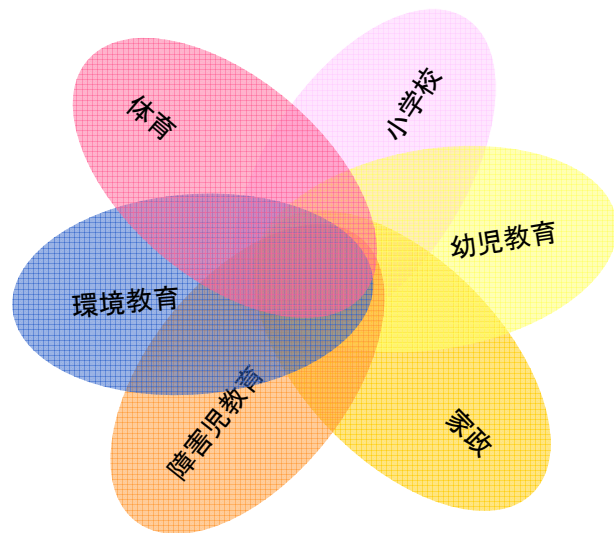
- ・環境用語の日西対訳語集の開発等



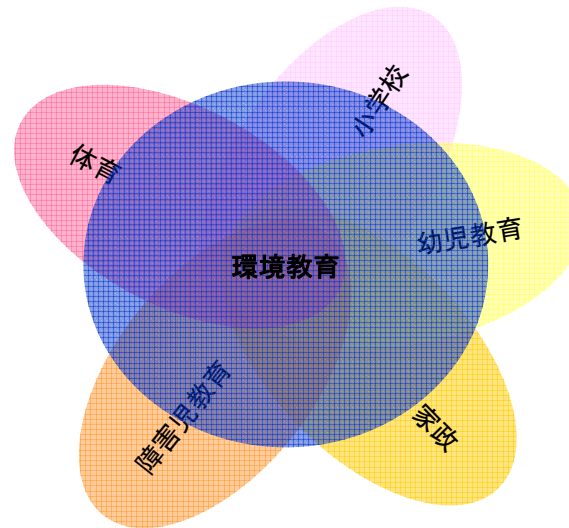
日本人海外教育協力者の環境教育の立場

あなたは、どれを選びますか？

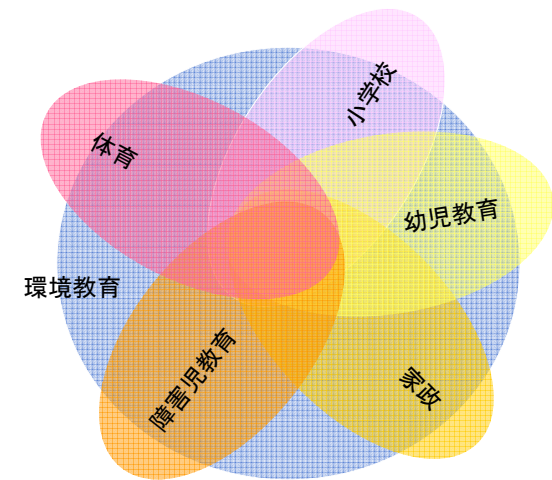
こたえは …… Type B と Type C を選ぶべきです



Type A



Type B



Type C

村松先生
宮城教育大学

環境教育

皆さんこんにちは宮城教育大の村松です。私から皆さんに対する派遣前のメッセージとしてですね、私たちは大変重要なお話を皆さんにメッセージするんじゃないかと思いますが、お疲れになっていると思いますが聞いていただきたいと思います。皆さんへの直接的な関わりのあるいわゆる情報支援ということで話しを進めさせていただきます。お手元に資料を配布してありますが、環境教育分野に関するこれまでの事業の紹介を簡単にさせていただきます。皆さんは必ずしも環境教育隊員ではないのですが、私たちはこういう取組をしますというのをまず簡単に紹介させてください。それから 2 つ目は環境教育というものの支援の対象というものは私たちこういうふうを考えていますよという話しをさせていただきます。そうすると皆さんにも直接関わりあるねってということになると思います。それから私たちがたくさん情報を集めているんですが、そういった情報をどういうふうに皆さんが使うのか使えばいいのかそういったお話を出すね、これから皆さん派遣国でいろいろな活動をなさいますが、そういうときにどういう観点で環境教育情報を使ったらいいのかということをお話させていただきます。

まずいままで私たちは何をやっているのかということ、この写真は今年の 3 月の始め 10 日間ぐらいでしたけれどもコスタリカとエルサルバドルに行ってきたときの写真です。環境教育分野のサポートというのは 12 名でやっておりますが、そのうち 2 名にいただきました。一番左が私たちの事業の顧問をしてらっしゃる JICA の〇〇〇〇先生です。JICA の顧問が同行してくれて初めて私どもの調査がうまくいった、我々海外調査に関してはそれほど専門的でないもんですから JICA の協力を得て行ったという時の写真です。私たちはいったい環境教育分野でどんな支援をするのかということここで簡単にまとめてあります。1 つは派遣前、もう 1 つは派遣中、そして隊員の帰国者に対する 3 種類のサポートというのを考えている。特に派遣前ではいったいこれから皆さんが現地に行ったときに困らないように前もって何をしてあげばいいのかというようなことを支援するためにいろいろな情報を皆さんにお渡ししておきたいということで自学研修支援ということで手元の資料に書いてありますから読みませんがいくつかの情報というのをまとめてコンパクトにして皆さんにご提供するということが一つ。それから派遣中に対しては、実際に現地ですとおりにはいかないですとか、あるいはこういうことがしたいんだけどこういう場合どうしたらいいんだろうとか、そういったことに対していろんなアドバイス、問題点をこちらにもってきてもらえばそれについてのアドバイス等をしていくというそういう支援、それからもう 1 つは皆さんが 2 年後戻ってきた時に皆さんの海外の経験というのを日本の学校教育や教員養成の中でどういうふうに活用していけばいいのかその受け皿というのをどういうふうに置いておけば皆さんの海外のすごい教育力を日本の教育に還元できるのか、い

いわゆる国際理解教育という 1 つの大きな枠の中で私たちができるまとめ・体制的なこと、そういったことをですね作っておく、作っておきたい、そういうことでこの 3 つの部門の支援をしていくということです。時間ないのでいちいち読み上げませんが。

それで今日は派遣隊員の事前準備ということでまずどんなことをするのか、で実は環境分野に関するお話なんです、実は後でちょっとお話ししますが環境分野というのは皆さんが現地で活動する時に必要ないろんな分野の 1 課題になっていくものです。これは皆さんが学校の先生で例えば小学校の総合的な学習の時間でやるとか、いわゆる総合学習的なものの中で環境というのはほとんど取り上げるのではないですか。そういうことで環境というのはいろんな教科の中で常に密着したものでちょっとこれを考えて欲しいんですが、事前準備としてどんなことを勉強しておかなくてはならないですか、これはあくまで大学からの皆さんへのメッセージであって学際的な支援の立場としてまとめたものということですね。まず 1 つはここに書いてあるように現地の状況を把握しておかなくてははいけませんね、こんなのは当たり前の話ですね、私から言われるまでもない。それから派遣先の業務というのはどういうものか、これも当然ですね。そういった派遣地の状況や求められる業務に対してどんな教育の方法や技術があるのかということをやっておくべきなんです。それからもう 1 つ重要なことは過去の隊員は同じような課題に対してどんな取組をしていたか、そしてどんな成果があったのかということも勉強しておかなくてはならないですね。つまり青で描いているようなものですね、まとめますと。派遣先の要請・派遣先の業務水準、それから派遣先の業務環境、教育環境はどうなっているか、その中で予想業務に対する教育課題、どんな目的を設定すればいいんだろうとか、その方法はどうか、それをやった時にどんな教育効果があるのか、そういったことを少し頭の中でシュミレーションしておくことがいいんじゃないですか、ということですね。それからもう 1 つは前任者からの引継ぎ事項というのはどんなものがあるか、どういうところに気をつけろと彼らは言っているのか、これをやるともって教育効果が上がるよといった情報、そういったことを前もって勉強しておく皆さんはいろんなところに行ったときに比較的容易に現地での教育計画といったものを立てられるんじゃないですかということですね、それからいろんな隊員が体験なされた成功のノウハウですとか、あるいは失敗談というのをよくよく調べておくといいですね。そしてそうしたことに対して隊員はどんな対策をとったかその成果はどうだったか駄目だったか駄目ならばどう行った方法があり得るのかそれを皆さんは考えて行けばいいということ。それからもう一つはそういったこといろんなことをやっ行って行かなくてはならないですね。行って初めて目的が分かったとか、ああこういうことを向こうの人たちは要望しているのか、それに対して皆さんは答えて行かなくてはならない、努力するんですね、そんなときにいろんな情報がまた必要になるんです。教材であるとか、じゃあどこに行けばその教材が得られるのか、そういうことを私たちは一つの情報パックとして皆さんにお渡ししておきますという取り組みなんです。そのために派遣現職教員データベースというのを今年 1 年で必死になって作りました。それはこんなものです。

皆さんの資料の2枚目か3枚目にあります。これ派遣現職教員活動データベースっていうんです。いわゆる帰国隊員、皆さんがこれからなさるんですけど、1号報告書から5号報告書までするんですよ。そういったものを今までの隊員、主に環境教育分野の隊員なんです。そういう人から情報をもらいまして JICA の報告を得て報告書をお借りしてそれを全部読んで1字1句読んで内容について分析かけたんです。その分析結果を系統的にまとめてこうしたデータベースにしたものがあります。いいですか、これを私たちは JICA に全部データベースをお渡ししていますね、それから JICA から皆さんにたぶん配布していくんじゃないかということですので、これはインターネット等で見れるんですが、皆さん実際にアフリカとかいろんなところに行きますとね、インターネットなんか使えませんよね。そういう場合どうすんのこういうの、だからこっちでは CD 版とか DVD 版でパソコン単体で入るように、皆さんが派遣現地のどこかの村のどこかのアパートで一生懸命勉強するとき、そのアパートの皆さんのパソコンの中に見えるような形まで持って行ってそれをお渡ししているいろんな勉強をしてもらおうかとかこういう話ですね。10:58 でいろんなものがありますが時間がないので例えば地域別検索でインドネシアではどんな活動をしてんのかというふうに現れてきます。4名の隊員のデータがここに載ってます。インドネシアのどこに配属されて業務内容はどんなことかそういったことを我々はまとめているんです。例えば活動計画はどうなっているのか達成度はどうだったか報告書はどういう風に書かれているのか、それから障害・問題点はどんなものか支援の効果はどうだったか今後の課題はどういうものがあるのかそういうことをまとめています。それからこの人たちがポイントとなることをたくさん言っていますから今後の協力の見通しをこの人はどういう風に思っているのかそれをどう後続隊員に引き継ごうとしているのか、そういうのをこちらが全部読んでとても重要だなという部分を我々は赤で囲ってですね、そういったことを皆さんにご提示できるようにしている。しかも膨大な文章からすぐに読み取れるようにコンパクトにまとめている。ですからこれを印刷しても A41 枚程度になる。そんなものにまとめている。こういうものをいっぱい載っています。それから派遣隊員はどんな計画を立てているのか、それに対してどんな報告をなさっているのか。つまり計画があるわけだ、その計画に対して活動報告はどういうものかとか、これを課題に対する継時的変化としてうまくいったかうまくいかなかったかということを表としてまとめられている、そういったものをここに載せている。そういった活動の実態に対して私たちは彼らに対して何ができるのかということであるような教材等をここに設けている。例えばゴミ問題は多いんでゴミに対しては環境教育的な立場からこういうやり方がいいですよというアドバイスをしています。そういうのをこういうふうにまとめて提供している。いわゆるこちらから支援教材みたいなものをいろいろ載っている。そしてこの人に対して、ああこういう活動をやっているのねっていうふうに我々は全部評価していますから評価した内容がここに書いてあるというものです。こういう情報がいろんな隊員の報告書を使って書かれてあるもの、欲しいでしょこういうの。これは皆さんに JICA を通して手許に入りますから、そういうのをうんと活用し

てもらいたいということです、いいですか。あと見てもらえばいいんですけど、いろんな課題ありますよね、生活関係の課題でありますとか、それから理科の課題とか、そういったものに対して例えば、エコツーリズムってやってんのかなと、そうするとこんなにやってた。でこれを見るとさっきのフォーマットで全部見えてきますから、そしてエコツーリズムでこの人は要望とか提案してるんで、どんな内容で提案しているのか、それを派遣前の隊員はしっかり読み取ってああこうやればいいのね、そういうふうにしていくんですよ。14:33 情報の使い方というのはそういうものなんですね。これからもっと教えるんだよ。えっと思うくらいのびっくりするようなことを教えますからね。いいですか、情報を作っていく立場ではこれは実に大変なんです。雑な言い方をすると死ぬ思いをするわけだけど使う方はものすごくメリットあるということです。こういう形のをまず用意しましたので、利用してくださいということです。それでいろんな課題をもっています。この人の活動課題はこうですよ、障害はこうですよ、こんなにまとめていますから見たいでしょ。こういうのがいっぱいあるんです。こういうのおもしろいでしょ。それから環境教育実践事例データベースっていうのがあるんです。これは皆さんにあとでこれを使って少し教材を作ってみましょうというのがありますからこれは省略しますよ。それでようするに海外での環境教育活動って一体何なのかという日本の環境教育活動は皆さんの小学校・中学校等でやってるから耳にしたり目にしてるから今お話ししないけど海外での環境教育活動っていうのはこういうことです。隊員が仮に行くとすると指導者養成支援というのがあります。向こうにはこの学校の中で子どもたちは一生懸命勉強するけどカウンターパートというのがいます。そういうカウンターパートと一緒にいるんなことを教えていく。そんな時に隊員の役割は1つはそういったカウンターパートをいかに育てていくか、あるいは現地の先生をいかに育てていくかという指導するというのが1つ、もう1つはそういうカウンターパートや同僚と一緒にあって子どもたちに直接教えていくというのがもう1つ、これが2つ、大きく分けるとね。どっちが多いかというと2つ目の直接教育というのがほとんどです。じゃあどんな勉強を子どもたちにさせるのこれは地域地域によって全く違うんだけど、それはここに書いてあるように大体はいわゆる環境問題というのがあって深刻なんです。そういった問題に対して知識を教える、世の中ってこういうもんなんです、酸性雨ってこうなんです、ゴミ問題ってこういうことですよって知識だけ教えるような教育が今なされているから問題だとこういうふうな話しなんだけど、そういう取組ともう1つはもう学校論・環境教育というよりはそういった教科的な枠組みではなくてもう暮らし教育・生き方教育、そういうものに全部関わってくるということはどういうことかということと皆さんの教科の中で扱えるものがほとんどなんだということです。もうこれ以上説明しません。自然と暮らしの中で自分たちは生きていくわけですからそういう中でいろんな物資がどんどん入りこんでいってそしていろんな環境破壊っていうのも起こってくるわけです。例えばプラスチックというのはほんと便利なんですね。コスタリカなんてのはこれからどんどんプラスチックなんか入っていきますから例えば包装紙に使ったら、そしたら便利だね

ってこうなるわけでしょ。でももうこれいらなくなった、どこに捨てるの、道端に捨てる。そうするとこうなってくる。つまり処理方法が分からないとかいろんな課題がある。だから今コスタリカでは一生懸命ゴミの回収とかをやっています。その中にいわゆる派遣現職教員や技術隊員と呼ばれる人たちが関わっています。こういうふうな取組を今しています。求められる教育というのはこういうふうにニーズとその地域の発展性に寄与するものと技術隊員の能力と受け皿となる子どもたちの頭・学習力・意欲そういったものの中であなた方はみんな教育の計画を立てていかななくてはいけないんですよってお話しです。でいろんなニーズがありました。これは直接行って話を聞いてきたんです。で皆さんの資料に書いてある通りですが、見てください。主に情報支援欲しい、情報の共有化が欲しい、こういったことをやる時にどこにいけば資料があるのか、そういった社会情報も教えてくれ、あの隊員は他の国でどんな活動をしているかその情報も欲しいそういったものをまとめて渡します。こういうふうな支援を私たちは計画して今までやってきているわけです、いいですか。それで最後ですけど、こういうふうな図を見た時に今日 6 つの課題、環境教育はこうですか、いろんな柱があります、柱の 1 つに環境教育をあげています。こうですか、それともこうでしょうか、環境教育は。つまりいろんな柱の上に立つものが環境教育ですか。いえいえ違いますよ、下にあるものですよ、こういう図、いいですか、皆さんはこの 3 つの中から環境教育ってのはどれだと思えますか。何番目だと思う？全部？、近い。大体は皆な C って答えるのね、大体タイプ C だよ。答えはね、こうです。タイプ B と C を選ぶべきです。いいですか。これは一側面的な話しなんですけどタイプ A というのは海外が日本の皆さんに要請しているような内容こういうこと、これ側面的ですよ、いいですか。だけど環境教育の本質ってのはこういうところにあるんです。こういったものを背景にして、ここで現地の人たちの要望に応じていかななくてはなりませんよ。ということです。いろんな教科があります。教科がある上の部分に環境教育があればその上の部分の環境教育はいろんな教科に支えられているということが分かるでしょ。それから下じゃなくて上にあるというのは環境教育の持っているいろんな教育方法や能力をそれぞれの皆さんの分野に活用できるよってことを言っています。いいですか、ですからこれとこれなんです。皆さんのいわゆる教育文化部門のこれからの活動の基盤となるものなんだということはお話しておきたいと思えます。以上です。